

## 参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	視点「甲斐ある一期」
著者 / 所属	有安 洋樹 / 第一特別調査室
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	477号
刊行日	2025-7-25
頁	2
URL	<a href="https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rip_pou_chousa/backnumber/20250725.html">https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rip_pou_chousa/backnumber/20250725.html</a>

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください (TEL 03-3581-3111 (内線 75013) / 03-5521-7686 (直通))。

## 甲斐ある一期

第一特別調査室長

ありやす ひろき  
有安 洋樹

千利休が遺したとされる「一期一会」という言葉がある。一期は一生、一会はただ一度の出会いを表し、稽古、茶会、日常においても、二度と巡り会えない瞬間に、亭主も客も相手を思いやる気持ちを何より大切にするとされる。

茶道裏千家前家元の千玄室氏は、先の大戦で学徒出陣、特攻隊入隊の経験を持たれ、本年4月に102歳の誕生日を迎えられた現在も、茶道を通し世界平和を訴える活動を続けられており、去る6月15日に京都で行われた講演会では、戦地において任務に臨む直前の仲間にお茶を振る舞われた記憶を語られたという。

科学の進展に伴い生まれた技術が、人々を豊かにする半面、有史以来今なお世界各地で繰り返される戦乱にも投入されている現実を、各種報道を通し見聞するにつけ、痛ましさとやるせない思いを禁じ得ない。

戦火が生じる原因には歴史の流れの中で生じた様々なものがあるだろうが、変わらないことは、長年をかけて築き上げられた文明や文化、そして人々の平穏な生活と生命が、戦火により失われるという事実である。

人間と動物とを分ける要素として「理性」の存在が挙げられるが、かけがえのない地球上で異なる社会、経済、文化、あるいは自然環境等において生を営む人間には様々な生き方があることを認め合い、相互の信頼を育みつつ、実効性のある一定のルールや合意を形成し、これらの差異を超えて共存しようとする努力が是とされるか否か。

個々人が平和裏に生き甲斐のある一生を送れる日が、世界規模での協調の下、一日も早く到来することを願ってやまない。